

## 米国留学準備を目的とした短期集中型アメリカン・ ソーシャルスキル学習セッションの記録 (1)

—自己紹介と対人関係の開始に焦点を当てて—

高濱 愛・田中 共子

### 要旨

筆者らはこれまで、米国留学予定の日本人学生を対象とした教育的サポートの一環として、留学準備を目的としたアメリカン・ソーシャル・スキル学習セッションを試みてきた。本稿では、短期集中型で行ったセッションの導入部分に焦点を当てて、参加者が英語で行った演技の対話記録やコメントの詳細について報告する。対話とコメントから、参加者たちが助言なしで思いついたままに演じた1回目と比べて、2回目の演技の段階にいたっては言語・非言語の両面で変化が見られた。こうした変化は参加者たちの積極性や向上心の表れと解釈された。

**キーワード**：米国留学、留学準備、ソーシャル・スキル、日本人留学生

### 1. はじめに

筆者らはこれまで日本の大学において、海外留学前の学生に対する教育的サポートを充実させる目的で、アメリカに留学を予定している日本人学生を対象に、現地で必要とされるソーシャルスキルを渡米前に学習するセッションを試みてきた（高濱・田中、2009a；2009b；2010a；2010b）。ソーシャルスキルとは、「対人関係の形成・維持・発展のために必要とされる行動」（田中、1994、p3）のことであり、有形無形の人的支援を得るソーシャルサポートネットワークの形成を介して、異文化適応を促進する可能性が示唆されている（Takahama, Nishimura, and Tanaka, 2008）。2日間の短期集中型セッションを実践したところでは、参加者はセッションの感触や効果を肯定的に受け止めていた（高濱・田中、2010b）。彼らは自分たちのロールプレイの演技が向上したと認知しており、肯定的な自己評価を得ていた。だがこの報告は、概要を述べることと、参加者によるセッションと演技の評価という結果部分を報告することが中心であり、対話やコメントの詳細は明らかでない。セッションで現実になにがやりとりされ、どう展開していったかという場面の細部は把握しにくい。後続研究者におけるセッションの再現性を保障するためには、演技の対話記録やコメントの記録を示しておくことが効果的であろう。記録は細部に渡る長いものなので分割して公表する。本稿では、対人関係開始のスキルに焦点を当てた短期集中型セッションにおいて、特にその導入部分に焦点を当てて報告をする。

## 2. 方法

セッションと研究の方法の詳細は、既に高濱・田中(2010b)で報告が行われている。本稿では、要点を抜粋しながら、以下にその概略を述べる。

**調査協力者** X大学の日本人女子文系学部生4名(S11、S12、S13、S14)。年齢は19歳から22歳。セッション後2カ月以内に、アメリカのY大学に交換留学生として約10カ月間留学予定であった。英語力は、Y大学が留学のために定めた基準を全員が満たしている。

**設定** 2008年某月に2日間連続で、X大学においてアメリカン・ソーシャルスキル学習セッションを実施した<sup>1</sup>。アメリカン・ソーシャル・スキルとは、アメリカの文化や社会で期待されるような人付き合いの要領を指す。留学先で直面すると予想される課題場を設定し、1回目は自由に演技に臨んでもらった。演技を録画したビデオを再生してフィードバックや助言を与えたのち、2回目の演技を試してもらった。つまり一回目は単に課題場を知らされただけで行った演技、二回目は解説を聞いた後で再度行った演技である。二回目も演技の録画をみながらフィードバックを行い、学習のポイントをまとめた。講師は留学経験のある本稿筆者2名、アシスタントは日本人学生2名が務めた。個々の演技と全体の様子を、ビデオカメラ2台で録画した。

**学習内容** 学習したスキルは全9スキルで、初日に初級・中級レベルのスキル1・3・4・5・6、そして2日目にはより難易度の高い上級レベルのスキル7・8・9・10を学んだ。本稿ではセッションの導入部分を成す、初級レベルのスキル1「聞く態度(笑顔・アイコンタクト)」、3「友人を作る」の対話記録を報告する。スキル1は、大学で自己紹介するという場面、スキル3は級友に話しかけて友達になろうとする場面、ともに対人関係の開始をテーマとする。渡米後ごく初期に遭遇する、比較的シンプルな場面である。

## 3. 結果

学習の流れに沿って、(1) ロールプレイ1回目の演技の対話記録、(2) ロールプレイ1回目のフィードバックとまとめの要約、(3) ロールプレイ2回目の演技の対話記録、(4) ロールプレイ2回目のフィードバックとまとめの要約、の順に記す。対話記録ではセッション当日の発話順に発言を記し、参加者のプライバシーにかかわると思われる個人名や地名などには適宜修正を施した。T1は本稿の第一筆者、T2は第二筆者を表す。また、演技のフィードバックとまとめの要約として、参加者の演技の感想、他の参加者やネイティブや講師からのフィードバック、ネイティブと講師からのアドバイス、参加者からの質問の4点を簡潔に記した。フィードバック等のコメントの後には、括弧内で発言者を示した。

### 3.1 スキル1・聞く態度 (笑顔・アイコンタクト)

一回目のロールプレイの対話 (表 1) を見ると、3 名が自分の専門分野や趣味などの話題を交えて自己紹介をした。しかし S11 は会話につまり、うまく文章をまとめきれなかった。参加者らは自信がなく、演技の録画を見たくないと述べていた。だがフィードバックでは、分かりやすい、表現がよいなどがあげられた。講師からは、明るい話し方で笑顔とアイコンタクトに心がけるよう助言がなされた (表 2)。

表 1 スキル1・ロールプレイ 1 回目の対話

<p>S11 : My name is S11. I am twenty years old. I am a student in X University. My hobby is playing the piano and reading books and so on.... I want to... I'm looking forward to ...make friends...in...many...there, no, here.....</p> <p>S13 : Hello, everyone. Nice to meet you. My name is S13. I am twenty-one years old and I'm from Japan. My major is Law, and especially I'm interested in international company law. I can play the flute. And I want to join some music clubs. So if you know some good club, please tell me. But if you don't know, I'm interested in volleyball, too. So please tell me. And if you don't know neither of them, please tell me some good club activities. Thank you.</p>	<p>S14 : Hello, my name is S14. I'm a student of Japan. In my university, I study...I study education. Especially I study educational psychology. And in America, I want to study about communication and international affairs. And I'm interested in Art, so here, in America, I want to watch and enjoy art and museum and musical. If you're interested in that thing too, please go together. Thank you.</p> <p>S12 : Hi, I'm S12. Please call me S12. Nice to meet you. I'm from Japan, and my hobby is to play sports and to watch sports. Especially I love basketball and cheer leading. ... If you like sports, please tell me and talk about sports. Thank you.</p>
--	--

表 2 スキル1・ロールプレイ 1 回目のフィードバックとまとめの要約

<p><b>感想</b></p> <p>英語を喋ると声が低くなる (S13)</p> <p>自分の演技のビデオ見たくない (全員)</p> <p><b>フィードバック</b></p> <p><b>【S11 の演技】</b></p> <p>「I'm looking forward to」の表現はいいと思う、使える (S12)</p> <p>前を向いて話していた (S14)</p> <p>最初に基本情報を言っていたのがよい。模範になった (S13)</p> <p><b>【S13 の演技】</b></p> <p>ジェスチャーがあって気持ちが伝わりやすい (S12)</p>	<p>笑顔で親しみやすい、楽しそう (S14)</p> <p>声がいい、わかりやすい (S11)</p> <p><b>【S14 の演技】</b></p> <p>周りに配慮している (S11)</p> <p>アートについて詳しく述べていて誘われやすそう (S13)</p> <p>興味がある人はきいていると思う (S12)</p> <p><b>【S12 の演技】</b></p> <p>明るい (S14)</p> <p>皆が話せる話題だった (S13)</p> <p>はきはきした感じ (S11)</p> <p><b>アドバイス</b></p> <p>明るい表情、はきはきと (T1)</p>
--	---

面白い、楽しい、親しみやすい感じが好感をもたれやすい (T1)	話し方で相手に与える印象が違う (T2)
ジェスチャー、アイコンタクト全員取れるように (T1)	内容の面でもフレンドリーに (T1)
	具体的で個人的な情報を提供する (T2)
	あいづちしながら聞く (T1)

解説を受けた後のロールプレイ 2 回目の対話 (表 3) では、S11 は少々言葉につまりながらも、専門分野や好きな俳優等趣味の話題に触れて、文章を完結させられた。その他の 3 名では、発話内容には 1 回目と比べて大きな変化はみられない。だが、“So please be my friend (S13)”、“I’m looking forward to being your friend (S12)” といった新しい誘いかけの言い回しで、友達になってほしいという気持ちを表現するようになっている。この 2 回目の演技の振り返り (表 4) では、S12 は 2 回目の方がロールプレイのパフォーマンスが上達したと述べた。さらに、フィードバックのコメントでも、「1 回目よりも笑顔がすばらしい」「内容がさらに具体的になっていた」等、言語と非言語の両面で 1 回目より演技が向上したとの認知を述べた。

表 3 スキル 1・ロールプレイ 2 回目の対話

<p>S12 : Hi, I’m S12. Please call me S12. I’m looking forward to being your friend. My hobby is to play sports and to watch sports. So especially I love cheer leading and basketball. If you like sports, please tell me and talk about sports with me. Thank you.</p> <p>S14 : Hello, everyone. My name is S14. Please call me S14. Nice to meet you. I’m...I came from Japan. In Japan, I study education, and especially I interested in educational psychology. In America, I want to study communication and international affairs. I’m interested in Art, especially musical and paints. So, I want to go to museum and musical with you. So if you are interested in that, please go together. Thank you.</p> <p>S13 : Hello, everyone. Nice to meet you. My name is S13. Please call me S13. I’m from Japan, and I’m twenty-one years old. My major is Law, and especially international company law. In this university, I want to</p>	<p>study ... business. My hobby is playing the flute. If you know, please tell me some good music club. I’m interested in volleyball, too. So if you know some good sports club, please tell me. And if you don’t know neither of them, that’s OK. Please tell me good some clubs. I’m interested in everything of life in this university. So please be my friend. I hope to be one of your good friends. Thank you.</p> <p>S11 : My name is S11. I’m twenty years old. I’m from X (街の名前) , It’s next to Y Prefecture. ... I am...I major in Law, especially international law. For example, United Nation. My hobby is playing the piano and watching movies. I like Johnny Depp. If you...please tell me about your interesting movies, your favorite movies. And let’s go to the theater. Thank you for listening.</p>
--	--

米国留学準備を目的とした短期集中型アメリカン・  
 ソーシャルスキル学習セッションの記録 (1)  
 ー自己紹介と対人関係の開始に焦点を当ててー

表 4 スキル 1・ロールプレイ 2 回目のフィードバックとまとめの要約

<p><b>感想</b></p> <p>内容的には二回目がいいと思うが緊張した (S12)</p> <p><b>フィードバック</b></p> <p><b>【S12 の演技】</b></p> <p>笑顔がよかった (S11)</p> <p>かわいくて友達になりたい (S13)</p> <p>一回目よりも笑顔が素晴らしい (S14)</p> <p><b>【S14 の演技】</b></p> <p>内容がさらに具体的になっていた (S11)</p> <p>流暢になっていた (S13)</p> <p>前より分かりやすくはきはきしていた (S12)</p>	<p><b>【S13 の演技】</b></p> <p>適切な早さ、大きい声で聞き取りやすい (S11)</p> <p>落ち着いていてメリハリがある (S14)</p> <p>ジェスチャーがいい (S12)</p> <p>話したいことがたくさんあって、長めに話せてよかった (S13: 自分の演技について)</p> <p><b>【S11 の演技】</b></p> <p>聞き取りやすくなった、周りを見られていた、ジョニーデップで笑った (S12)</p> <p>人を笑わすのは大事なスキル (T2)</p> <p>やりやすくなった (S11)</p>
--	--

3.2 スキル 3・友人を作る

スキル 3 の課題場面は、いつも同じ授業をうけている学生と友達になれるように、そのクラスで自分から話しかけてみるという設定で行われた。1 回目の演技では (表 5)、S12 と S14 は趣味の話を出して、一緒に出かけようと相手を誘っている。S13 は授業が難しいことを理由に、勉強の援助を依頼している。S11 は同じ授業の履修という共通点にふれて、友人になりたいと述べている。1 回目の演技への感想 (表 6) として、能動的に行動することの重要性や演技の難しさが語られた。フィードバックでは、積極性や勢いを評価し、誘い方のうまさを評価するコメントが見られた。

表 5 スキル 3・ロールプレイ 1 回目の対話

<p>&lt;S12 の演技 (相手役は S14) &gt;</p> <p>S12 : Hi, I'm S12. Would you tell me your name?</p> <p>S14 : My name is S14.</p> <p>S12 : Ah, S14. Happy to see you.</p> <p>S14 : Nice to meet you.</p> <p>S12 : I want to talk with you.</p> <p>S14 : Me?</p> <p>S12 : Yes. Please tell me what's your hobby.</p> <p>S14 : My hobby is watching movie.</p> <p>S12 : Oh, Really? Me too. Let's go to the theater.</p> <p>Is it OK tomorrow? Tomorrow, it's OK?</p> <p>S14 : Tomorrow, OK. I'll be fine.</p> <p>S12 : Let's go.</p> <p>&lt;S14 の演技の演技 (相手役は S13) &gt;</p> <p>S14 : Hi.</p>	<p>S13 : Oh, hi.</p> <p>S14 : I'm S14. Ah,... Do you have free time after this class?</p> <p>S13 : Yeah, that's OK.</p> <p>S14 : I want to go together, I want to go out together.</p> <p>S13 : Oh, where?</p> <p>S14 : What are you interested in?</p> <p>S13 : I'm interested in music.</p> <p>S14 : Music? Me too. Let's go to the ... CD shop.</p> <p>It's OK?</p> <p>S13 : I have a CD. I want.</p> <p>S14 : So after class, go together.</p> <p>S13 : OK. See you.</p> <p>S14 : See you.</p>
---	--

<S13の演技(相手役はS11)>

S13 : Hi. Do you have a minute?  
 S11 : OK.  
 S13 : I have a question to you. This class is a little bit difficult for me.  
 S11 : Oh, me too.  
 S13 : So I want to study with you after this class. Is it OK?  
 S11 : OK.  
 S13 : Thank you. I'm happy. I want to be your friend. OK?  
 S11 : OK.  
 S13 : Oh, Thank you.

<S11の演技(相手役はS12)>

S11 : Hi, I'm S11.  
 S12 : Hi, Oh, S11. I'm S12.  
 S11 : I took the same class with you. I sometimes see you.  
 S12 : Oh, me too.  
 S11 : So I want to make friends with you.  
 S12 : Really? Oh, thank you.  
 S11 : Do you have free time?  
 S12 : Yeah. Of course .  
 S11 : Please go to cafeteria. And talk about this university.  
 S12 : I would like to. Let's go.

表6 スキル3・ロールプレイ1回目のフィードバックとまとめの要約

**感想**

口実が難しい (S11)  
 相手に引かれるかどうか (S14)  
 話しかけられて嫌な人はいない、自分から話しかけないと、まっていたらダメと思う (S13)

**フィードバック**

**【S12の演技】**

趣味を自分からいっている、共通の趣味を見つけた (S11)  
 握手をしていた (S13)  
 勢いがすごかった、一緒にいってしまおうと思った (S14)  
 何を言おうかと思った。友達になりたいというのはどうなのかなと疑問 (S12)

**【S14の演技】**

スキンシップが取れていた。誘い方がうまい (S11)  
 予定の取り方がうまい、勢いがある (S12)  
 音楽、CD ショップは気軽でよい (S13)

相手の反応があるとあわてる (S14)

**【S13の演技】**

自然な流れだった、感謝の気持ちを伝えていた (S12)  
 勉強教えてというのは必要になりそう (S14)  
 授業に絡めると話しやすい (T2)  
 積極的なのがよい (S11)

**【S11の演技】**

同じクラスだよというのがよい (S12)  
 これから関係をつないでいけそうな雰囲気 (S14)

**アドバイス**

自分の事から話すことが大事 (T1)  
 表情をやわらかく、明るい雰囲気 (T1)  
 友達になったらすることを誘う (T2)  
 質問攻めは友達になりにくいかも (T1)  
 「自分が〇〇に行くから、あなたもどう？」という順序がよい (T2)

続いて2回目の演技での対話(表7)を見ると、S12は1回目よりもやりとりの量が増えており、共通の話題として映画鑑賞の代わりにスポーツの話を試している。S14はいきなり誘うのではなく、同じクラスを履修していることを互いに確認した上で誘っている。S13は、1回目と同じ流れで話してはいるが、具体的にカフェに行こうという誘いをすると

米国留学準備を目的とした短期集中型アメリカン・  
 ソーシャルスキル学習セッションの記録 (1)  
 —自己紹介と対人関係の開始に焦点を当てて—

まで話を展開させている。最後の S11 は、後半に教員の話などから相手との共通点を探るという新しい試みを行っている。この感想として (表 8)、前回よりやりやすくなった、余裕ができたとの語りがみられる。フィードバックのコメントとしては、一緒に行ってみたくするというものや、演技がより自然になったというものが複数あった。講師からは、留学先では人間関係を自分から積極的に構築していくことの大切さが助言されている。

表 7 スキル 3・ロールプレイ 2 回目の対話

<S12 の演技 (相手役は S14) >	together CD shop, it's OK?
S12 : Hi, I'm S12. Would you tell me your name?	S13 : OK.
S14 : My name is S14.	S14 : Thank you.
S12 : Oh, S14. We take same class, you know?	<S13 の演技 (相手役は S11) >
S14 : I remember you.	S13 : Hi.
S12 : Thank you. I love sports. How about you?	S11 : Hi.
S14 : I love sports, too.	S13 : Do you have a minute?
S12 : Really? ... My friends and I will... join sports party.	S11 : Yes.
S14 : Party? That's good.	S13 : I have a question to you. I like this class, I really like this class, but this class is a little bit difficult for me. I want to study with you.
S12 : So, I want to invite...invite you.	S11 : OK. Of course.
S14 : Me? Thank you. And when?	S13 : Are you free after this class?
S12 : Next weekend.	S11 : OK. I'm free.
S14 : Next weekend? Oh, I can go.	S13 : Also, Let's go to cafeteria together.
S12 : Really? That's great.	S11 : OK. let's go.
S14 : May I go? Can I go?	<S11 の演技 (相手役は S12) >
S12 : Yeah, Of course.	S11 : Hi.
S14 : Thank you.	S12 : Hi.
<S14 の演技 (相手役は S13) >	S11 : I'm S11.
S14 : Hi, I'm S14.	S12 : S11. I'm S12.
S13 : Oh, I'm S13.	S11 : I sometimes saw you in this class. And I want to talk you... with you.
S14 : We are taking same class. Do you remember me?	S12 : Thank you.
S13 : Yeah, I know.	S11 : I like Professor Z (人名) .
S14 : Thank you.	S12 : Me too.
S14 : After this class, I will... I'm going to go to CD shop. If you have free time,	S11 : Do you have free time after this class?
S13 : Yeah. I'm free.	S12 : Yeah.
S14 : Are you free? Let's go together. Can you go together?	S11 : Let's go to the cafeteria, and talk about her.
S13 : Yes. I just have a CD. I want.	S12 : I'd like to. Let's go.
S14 : Oh, that's good. So after this class, go	

表8 スキル3・ロールプレイ2回目のフィードバックとまとめの要約

<b>感想</b>	<b>【S13の演技】</b>
<p>前回よりやりやすくなった (S11)                  余裕がでた (S13)                  自分のことをいっていいと分かってよかった (S14)                  お茶やランチが分かりやすいので、それで考えてみた (S12)</p>	<p>自然、自分の意見がはっきり伝わっていた (S12)                  声が明るいトーン、ポジティブ (S14)                  必死、熱意が伝わった (S11)</p>
<b>フィードバック</b>	<b>【S11の演技】</b>
<p><b>【S12の演技】</b>                  さっきより内容が濃くなった、長くなった (S11)                  具体的、自然 (S13)                  いきたいなと思える (S14)</p>	<p>楽しかった (S12)                  共通の話題を出せた (S14)                  雰囲気がアメリカン、強引さがいい (S13)                  まだまだこれから (S11:自分の演技について)                  「授業に絡めてはなす→自分のことをいう→誘う」という順序がよい (T2)</p>
<p><b>【S14の演技】</b>                  一緒にいきやすい (S12)                  いくかいかないか聞き手が決められる (S13)                  自分のことを話してから相手にきけた (S11)</p>	<b>アドバイス</b>
	<p>日本よりも人間関係のとっかかりをもつようにするのがよい (T1、T2)</p>

#### 4. 考察

本稿の目的は、短期集中型アメリカン・ソーシャルスキルセッション学習における演技の対話記録やフィードバックの記録を呈示し、セッションが実際に展開していった流れを見ていくことであった。対人関係開始に関する2つのスキルの学習について、逐語的な記録を検討した。

対話の記録をみていくと、思いついたまま演じた1回目と比べ、助言を得た後の2回目の演技では、参加者全員が演技に工夫を加えており、言語と非言語の両面に変化が生じている。必ずしも完全なパフォーマンスではなくとも、参加者自身が向上心を持ってセッションに臨んだ証とも解釈できる。参加者は、笑顔という文化行動の意味と重要性を認知的、行動的に理解したといえよう。演技のフィードバックでは、2回目の方が自然になったとする評価が見られた。演技後には「緊張する」「難しい」と述べながらも、「余裕が出た」「(要領が)分かってよかった」とも述べている。「自分から話しかけないと、まっていたらダメと思う」という語りには、スキル使用の態度にも積極性が増していたことがわかる。

なお、今回のパフォーマンスのビデオ記録を示して、ネイティブに演技の他者評価を依頼してみると、2回目の演技になっても、スキル1では視線や動作といった非言語的要素、スキル3では唐突さの面で課題が残るとの指摘を得た(田中・高濱、印刷中)。しかし2回目の演技においては、話題の豊富さや適切さ、情報の多さなどの点で内容が充実した等、上達を指摘するネイティブの記述が頻繁にみられた。すなわち参加者たちが効果的な演技ができるようになったとネイティブに受け止められたことから、参加者の主観的な向上感



米国留学準備を目的とした短期集中型アメリカン・  
ソーシャルスキル学習セッションの記録 (1)  
—自己紹介と対人関係の開始に焦点を当てて—

は客観的な裏付けを得ているといえよう。ネイティブによる他者評価は、セッション中の参加者のパフォーマンスの向上を、渡航後の環境における受け手側の視点から確認するための手続きとして設定されており、セッションの効果を示唆する結果といえる（田中ら、印刷中）。フィードバックと解説を得た後、ロールプレイにも慣れてきた2回目の演技では、参加者は理解した要領を積極的に試しているように見受けられる。菊池・堀毛（1994）は、対人関係の中では自己開示がほぼ同じ程度になされていくことを指摘し、「そこから次へと話がはずんでいくかどうかは、二人の間で共通の話題があるかどうかによる。しばらくはそれを探し合うのが、二人の仕事である」（菊池・堀毛、1994、p31）と述べている。今回は話者も相手役も場面設定を共有し、共通の話題を容易に見つけることができた。しかし渡航後の現実場面においては、認識が共有できるとは限らず、上述の「二人の仕事」はより複雑で困難なものにならざるを得ないだろう。したがって留学先では、参加者がセッションを通じて培ったスキル使用の態度や姿勢を日々実践していくことによって困難を克服し、異文化に適応していくことが求められる。

最後に今後の課題2点について述べる。第一点は、より留学先の現実に近い設定を創り出すために、高濱・田中（2009a；2009b）のように助言役や相手役にネイティブ学生を加えることである。また、セッションの効果確認や改良の手がかりのために、参加者の留学中のスキル使用について分析することである。先行研究（高濱・田中、2009c）では同様のセッションに参加した少数例を追跡した結果、彼ら全員が渡米前に学習したスキルを留学先で使用し、スキル使用の心構えも意識しつつ友人作りに臨んでいたことが確認されている。加えて彼らが現地で困難に直面した際に対人関係を活用した問題解決への道を見つけやすくなったことも推測されている。ゆえに今後も調査範囲を拡大して、縦断研究のパラダイムによる現地調査を実施していくことが求められよう。

注1) セッションのタイムスケジュールについては、以下の表の通りである。スキル2「初対面の相手に挨拶する」については、今回の参加者のレベルから見ると容易に過ぎるため、学習を省略した。

【1日目】

- 1) 自己紹介
- 2) 「ソーシャル・スキル」および学習方法についての説明
- 3) スキル1「表情（笑顔）、アイコンタクト、聞く態度」、3「友人を作る」、4「先生に質問する」、5「授業中に意見を言う」、6「要求を伝える」の学習
- 4) まとめ

【2日目】

- 1) スキル7「主張・交渉する」、8「援助を依頼される」、9「自己開示する」、10「ジョークを言う」の学習
- 2) まとめ

<各スキル共通の学習の流れ>

課題場面呈示→1回目のロールプレイ→フィードバック→2回目のロールプレイ→フィードバック→ロールプレイの演技に関する自己評価等をワークシートに記入

## 参考文献

- 菊池章夫・堀毛一也 (1994) 『社会的スキルの心理学』 川島書店
- Takahama, A., Nishimura, Y. & Tanaka, T. (2008). The influence of social skills on getting social support for adolescents during study abroad: A case study of Japanese short-term exchange students. 『留学生交流・指導研究』 (*Journal of International Student Advisors and Educators*) Volume 10, pp.69-84.
- 高濱愛・田中共子 (2009a) 「アメリカ留学準備のためのソーシャル・スキル学習セッションの試み—対人関係の開始に焦点を当てて—」 『留学生教育』 第14号、pp.31-37.
- 高濱愛・田中共子 (2009b) 「アメリカ留学準備のためのソーシャル・スキル学習の試み—アサーションに焦点を当てて—」 『異文化間教育』 30、pp.104-110.
- 高濱愛・田中共子 (2009c) 「在米日本人留学生による滞米中のソーシャルスキル使用—留学前ソーシャルスキル学習の受講者と非受講者の場合—」 『留学生交流・指導研究』 Volume 11、pp.107-117.
- 高濱愛・田中共子 (2010a) 「語学研修生を対象としたアメリカン・ソーシャルスキルの学習」 『静岡大学国際交流センター紀要』 第4号、pp.81-93.
- 高濱愛・田中共子 (2010b) 「米国留学予定の日本人学生を対象としたソーシャルスキル学習」 『一橋大学国際教育センター紀要』 創刊号、pp.67-76.
- 田中共子・高濱愛 「アメリカン・ソーシャルスキル学習における演技の他者評価：学習者のパフォーマンスに対するネイティブのコメントから」 『岡山大学文学部紀要』 (印刷中)
- 田中共子 (1994) 『アメリカ留学ソーシャル・スキル：通じる前向き会話術』 アルク

付記：本研究は、科学研究費補助金萌芽研究 No.19653099 (代表・高濱 愛) の助成を受けた。

(たかはま あい 法学研究科講師、たなか ともこ 岡山大学社会文化科学研究科教授)